

救急車の中でもおじいちゃんは苦しそうに
しています。病院まで歩いていける距離なの
に、到着するまでの時間がすごく長く感じま
した。「まだ着かないのか」、「何度そう思っ
たことでしょう。」
おじいちゃんの治療中にお父さんとお母さ
ん、そしておばあちゃんが慌てて病院にやっ
てきました。救急車が来たのに驚いた近所の
人が知らせてくれたということでした。
おじいちゃんの病気は心筋梗塞でした。お
医者さんは「処置が早かったから、大事には
至りませんでした。ご家族が一緒にいてよか
ったですね」と言い、病室を後にしました。
「村の病院にも、やっとカテーテルが入った
んだね」とお父さんが言いました。「カテー
テルって何」と聞くと、「血管を広げる機械
だよ。それを使って、心臓にたまった血の塊
を取り除くんだ」と教えてくれました。
「去年までこの村にあった小さな病院にはカ
テーテルがなかったんだ。でも、四月にこの

県立の総合病院ができたときに、入ったんだ
 ろうね。それまでは重い病気にかかる、とな
 りの市にある大きな病院に行かなければなら
 なかったんだ。救急車でも三十分くらいかか
 ると思うよ。もし、村に病院ができていなか
 ったら、おじいちゃんは助からなかったかも
 しれないね」とお父さんは言うのと、おじいち
 やんのいる病室に入って行きました。
 家に帰ってからは、お父さんはこの病院のこ
 とをいろいろ話してくれました。おじいちゃ
 んが住んでいるような農村は、人口が少ない
 から設備の整っている民間の病院がないこと
 高齢者が多いので、これからは心臓や脳の病
 気の人が多くなること、一つ一つ説明をして
 くれました。
 お父さんは「田舎だから少しくらい不便な
 のは仕方がないよ。でも、設備の整った病院
 がなくて、人の命が失われるようなことがあ
 ってはならないんだ。だから県がここに病院
 を作ってくれたんだ」そうも話してくれました

た。
 「これからは高齢者社会の到来で、社会保険
 費が増え、これから税金が高くなると新聞で
 報道されるのを目にすると『やれやれ』と感
 じたが、おじいちゃんが助かったのも、税金
 で作られた病院が近くにできたからと思うと、
 納税について考え直さないといけない」と
 もお父さんは言いました。
 税金は働いている大人が払うもので、それ
 がどう使われているのか知りませんでした。
 また、理解しようとも思いませんでした。で
 も、今度のおじいちゃんの入院をきっかけに、
 ぼくも税金について考えてみました。
 もし、みんなが「税金を払うのをいやだ」
 「もっと税金を安くしてほしい」と言つて、
 税金を払わなかったら、おじいちゃんが治療
 を受けた県立の病院はできなかつたでしょう。
 遠くの病院に運ばれる間に、最悪の事態にな
 っていたかもしれませぬ。県立の病院ができ
 る前におじいちゃんと同じ病気になった人の

中には、大きな病院に運ばれるまでに、亡く
 なった人もいたかもしれない。この病
 院はできました。一人一人の力が合わさって、
 おむいちゃんという一人の人間の命を救いま
 した。
 ぼくのお父さんやお母さんが納めた税金で
 作られた病院で、知らないだれかの命が助け
 られています。日本に住むみんなが少しずつ
 お金を出し合い、社会を支え合う仕組み、そ
 れが税金なのだ。お分かりました。
 税金についてまだまだ知らないことがたく
 さんあります。でも、おじいちゃんの病気を
 きっかけに、もつと税金について勉強したい
 と思いました。
 そして大人になったら、みんなで助け合う
 社会に参加する一員として、きちんと税金を
 納める人間になろうと思います。